

近づき過ぎたWハート



renino

温かい心を持った
ユウちゃんの
淋しさや悲しさを
取り除きたくて
僕は土足で
ユウちゃんの心に
飛び込んだ



renino



飛び込んであっという間に走り去った
君があっけにとられる程
あっという間に走り去った
そして気づいた




renino

ユウちゃんの淋しさや悲しさを取り除きたかったのに
いつの間にか僕がユウちゃんのワームな心に触れて
寂しさや悲しさを取り除いてもらって
それで満足してその場を離れてしまった



renino



僕はユウちゃんを傷つけただけだった
ユウちゃんを傷つけた？
だからユウちゃんも僕を傷つけた？
傷つけあいの繰り返し
ただお互いすごく好きなだけだったのに
お互いの心に入り込みすぎて自分自身が
それぞれ満たされて離れてしまった？

いや、違う

満たされたのは僕だけ

僕はただ恐れてただけ

愛しすぎて恐れてただけ

君を失うことを恐れてただけ

だったら始めから手に入れないほうがいい



renino

だから足早に通り過ぎた

自分でそうすることを選んだのに
ユウちゃんが遠くなってしまうことが悲しい
苦しい
自分から離れていったのに
ユウちゃんを傷つけてしまったことが
苦しい



renino

違う そうじゃない
ユウちゃんも恐れている
誰かに近づき過ぎるのを恐れている
再び裏切られることを恐れている
だから僕が近づいても近づいても
いつも少し距離を空けていた



だから僕は通りすぎてしまった
ユウちゃんが距離を置くから
近づきたくてもその1歩を躊躇って
一番近くに行きたい所には行けず
超えてしまった



renino

ユウちゃん 君がそうさせた
なのに
心を手に入れたら餌あげなくなっちゃうの？
なんて
僕は未だ君を手に入れてすらないんだよ
本当に人を愛せないのはどっち？
本気で恋できないのはどっちだろう？
僕は通り過ぎた
君に嫌われてると思って
僕は何事もなかったかのように通り過ぎた
でも君は愛してくれていた
このすれ違い
お互い愛し合っただけなのに向かい合わず
2人はすれ違った



renino

.....

僕はユウちゃんがとても好きだった
とても大好きだったので毎日会いに行った
手を繋いで散歩したり
一緒にご飯を作ったり
でもお互いの気持ちを決して
言葉にはしなかった
僕は全身で自分の思いを伝えた
お花を持っていったり
ぴったりくっついたり
ぐっすり眠るまでそばにいたり
でもユウちゃんから何かを言うてくることはなかった
ユウちゃんは
きっと自分のことは好きじゃないんだと思った



そんなある日ユウちゃんは
自分の恋の話をしだしたんだ
「私ね
長い間一緒に過ごした人がいたの
でも私
他に好きな人ができて
その人と別れたの
そして新しく好きになった人と
付き合ったの
そうしたら今度は
私にその人にふられてしまったの」
僕は黙って聞いてた
聞き終わった後も黙っていた



ユウちゃんは続けた
「それから私
ご飯もほとんど食べれなくなって
瘡せていったわ
ふられるって事が
どんなに辛いことか
初めて分かったわ」
ユウちゃんは少し微笑んだ
僕は言った
「傷ついてしまったんだね
もう恋をするのが怖いんだね」
ユウちゃんは黙ってた



renino

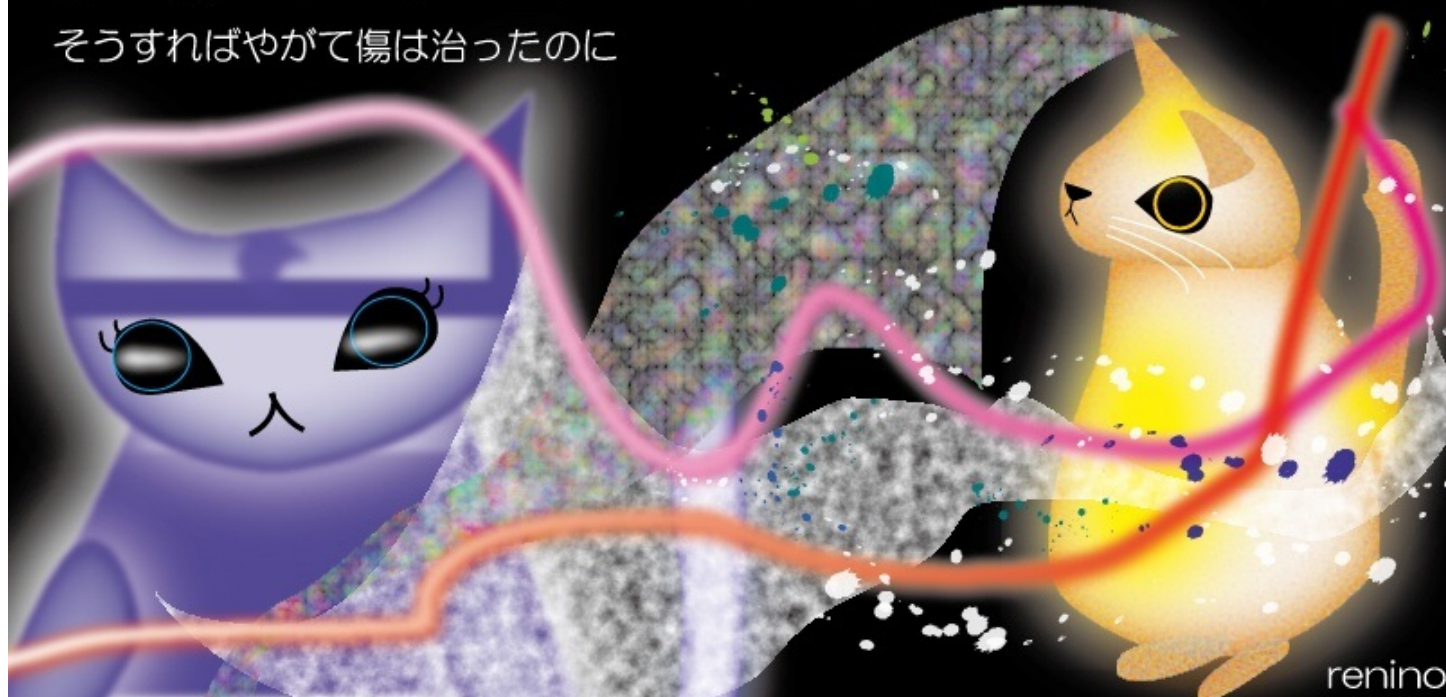
その話を聞いてから
僕はその話には
触れないように
気をつけながら
ユウちゃんと
接するようになった
まるで傷口がしみない様に
そっとお風呂に入るかのように
注意深くユウちゃんと
接するようになった



そうしている内に僕はユウちゃんがだんだん遠くを感じるようになった
どんなに会いに行ってもどんなに愛しても
きっと僕のことなんて好きになってくれないと思うようになった
誰かを愛することが怖いから僕のごことは絶対見てくれないと思うようになった
僕はだんだんと会いに行くことが少なくなった
とてもとても好きなのに
毎日だったのが1日おきになり2日おきに1週間に1ヶ月に
そしてとうとう会いに行かなくなった



大好きで大好きでどんどん君に近づいた
そうしたら傷口を見せられて触らないでと言われたような気がしたんだ
だから僕は傷口を避けて歩いた
君が僕に近づいてくれた時僕はもう通り過ぎていた
ああ 僕は傷口を避けてはいけなかったんだ
傷口に触れてそっと包んでいるガーゼのようにならなくてはいけなかったんだ
そうすればやがて傷は治ったのに



renino

.....
飽きたんじゃないよ
近づきすぎて道を見失ってしまったんだ
近づきすぎて君が見えなくなってしまったんだ



今日も紅葉が森を包みます
新しい恋を探し出した2人を包みます



renino